

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2008 年冬のボーナスと 家計の実態調査

～ “わが家の生活防衛策” 第 17 弾～

2009 年 1 月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

<目次>

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の実施要領	2
3. 回答者及び回答者世帯の基本属性	3
II. 調査結果	6
〔1〕この冬のボーナス	7
1. この冬のボーナスの手取り額	7
2. 昨年冬のボーナスとの比較	9
3. ボーナスの今後の見通し	11
4. ボーナスの主な使い道	13
5. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額	15
6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人	16
〔2〕わが家の家計	17
1. 現状での家計の苦しさ	17
2. 今後の家計の見通し	19
〔3〕わが家の生活防衛策	21
1. 家計簿をつけているか	21
2. 家計簿を何につけているか	23
3. 2008年景気後退の中で生活防衛のためにあえてしたこと	24
4. 2009年に家計に大きく打撃を与えそうな心配ごとの有無	25
5. 2009年に家計に大きく打撃を与えそうな心配ごとの具体的内容	27
6. 2009年生活防衛のためにしたいこと	29
7. 2009年の家計天気予報	31
8. 国民生活防衛のための政策	32
9. 定額給付金の使い道	34
〔4〕お金にまつわる話	36
1. 結婚後に夫からもらったものの中で最も高額なもの	36
2. 夫からもらったものの金額	38
3. 夫に内緒の資産の有無	40
4. 夫に内緒の資産の額	42

I . 調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

17回目となる今回は、2008年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、2009年の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦500人
＜サンプル配分＞

合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成20年12月11日～12月15日

(4) 調査項目

- ・この冬のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額、今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡したお小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・家計簿の有無とその形態
- ・2008年景気後退の中で生活防衛のためにあえてしたこと
- ・2009年に家計に大きく打撃を与えそうで心配なこと
- ・2009年に生活防衛のためにしたいこと
- ・2009年の家計を天気予報風に表すと
- ・国民の生活を守るために実施するとよいと思う政策
- ・定額給付金の使い道
- ・結婚後夫からもらった最も高価なものとその金額
- ・夫に内緒の資産
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

■妻の年齢

	サンプル数	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	平均 （歳）
全 体	500 100.0	11 2.2	114 22.8	56 11.2	69 13.8	73 14.6	52 10.4	85 17.0	40 8.0	39.8

■妻の職業

		サンプル数	正規有職	パート	専業主婦
全 体		500 100.0	79 15.8	123 24.6	298 59.6
年 代	20代	125 100.0	28 22.4	21 16.8	76 60.8
	30代	125 100.0	14 11.2	32 25.6	79 63.2
	40代	125 100.0	17 13.6	33 26.4	75 60.0
	50代	125 100.0	20 16.0	37 29.6	68 54.4

■世帯構成

		サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代同居	夫婦2世代
全 体		500 100.0	131 26.2	311 62.2	40 8.0	18 3.6
年 代	20代	125 100.0	44 35.2	70 56.0	8 6.4	3 2.4
	30代	125 100.0	31 24.8	82 65.6	8 6.4	4 3.2
	40代	125 100.0	28 22.4	85 68.0	8 6.4	4 3.2
	50代	125 100.0	28 22.4	74 59.2	16 12.8	7 5.6

■扶養中の子供の有無

		サンプル数	いる	いない
全 体		500 100.0	312 62.4	188 37.6
年 代	20代	125 100.0	70 56.0	55 44.0
	30代	125 100.0	88 70.4	37 29.6
	40代	125 100.0	91 72.8	34 27.2
	50代	125 100.0	63 50.4	62 49.6

■夫の役職

		サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
全体		500 100.0	205 41.0	142 28.4	85 17.0	68 13.6
年代	20代	125 100.0	97 77.6	24 19.2	2 1.6	2 1.6
	30代	125 100.0	47 37.6	57 45.6	16 12.8	5 4.0
	40代	125 100.0	26 20.8	33 26.4	43 34.4	23 18.4
	50代	125 100.0	35 28.0	28 22.4	24 19.2	38 30.4

■夫の勤務先の業種

		サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
全体		500 100.0	3 0.6	31 6.2	209 41.8	21 4.2	70 14.0	53 10.6	113 22.6
年代	20代	125 100.0	- -	11 8.8	52 41.6	4 3.2	17 13.6	16 12.8	25 20.0
	30代	125 100.0	1 0.8	5 4.0	43 34.4	5 4.0	22 17.6	16 12.8	33 26.4
	40代	125 100.0	1 0.8	5 4.0	63 50.4	3 2.4	16 12.8	11 8.8	26 20.8
	50代	125 100.0	1 0.8	10 8.0	51 40.8	9 7.2	15 12.0	10 8.0	29 23.2

■居住地

		サンプル数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
全体		500 100.0	27 5.4	246 49.2	56 11.2	114 22.8	28 5.6	29 5.8
年代	20代	125 100.0	7 5.6	59 47.2	16 12.8	27 21.6	12 9.6	4 3.2
	30代	125 100.0	8 6.4	57 45.6	19 15.2	27 21.6	6 4.8	8 6.4
	40代	125 100.0	6 4.8	74 59.2	9 7.2	27 21.6	4 3.2	5 4.0
	50代	125 100.0	6 4.8	56 44.8	12 9.6	33 26.4	6 4.8	12 9.6

■住居形態

		サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
全体		500 100.0	210 42.0	12 2.4	119 23.8	131 26.2	28 5.6
年代	20代	125 100.0	33 26.4	6 4.8	15 12.0	62 49.6	9 7.2
	30代	125 100.0	44 35.2	2 1.6	31 24.8	43 34.4	5 4.0
	40代	125 100.0	57 45.6	2 1.6	43 34.4	16 12.8	7 5.6
	50代	125 100.0	76 60.8	2 1.6	30 24.0	10 8.0	7 5.6

■住宅ローンの有無

		サンプル数	ある	ない
全体		500 100.0	240 48.0	260 52.0
年代	20代	125 100.0	42 33.6	83 66.4
	30代	125 100.0	65 52.0	60 48.0
	40代	125 100.0	81 64.8	44 35.2
	50代	125 100.0	52 41.6	73 58.4

■世帯年収(税込み)

		サンプル数	400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1,000万円未満	1,000万円以上
全体		500 100.0	34 6.8	154 30.8	119 23.8	90 18.0	103 20.6
年代	20代	125 100.0	17 13.6	71 56.8	23 18.4	7 5.6	7 5.6
	30代	125 100.0	9 7.2	52 41.6	37 29.6	13 10.4	14 11.2
	40代	125 100.0	4 3.2	20 16.0	29 23.2	35 28.0	37 29.6
	50代	125 100.0	4 3.2	11 8.8	30 24.0	35 28.0	45 36.0

II. 調査結果

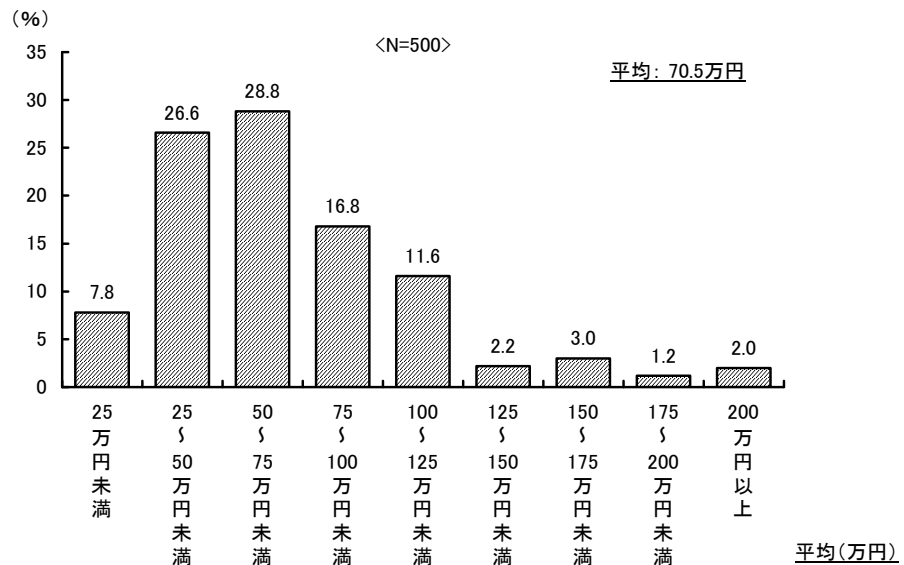
〔1〕この冬のボーナス

※『この冬のボーナス』とは 2008 年冬に夫が受給したボーナスを指し、奥様やお子様など他のご家族が受給したボーナスは含みません。

1. この冬のボーナスの手取り額

「50～75 万円未満」(28.8%)、「25～50 万円未満」(26.6%) がともに 3 割弱。平均は 70.5 万円。

図 1. この冬のボーナスの手取り額



		平均(万円)									
年代	20代 <n=125>	11.2	44.8	33.6	6.4	2.4	0.8	0.8	-	-	48.0
	30代 <n=125>	6.4	35.2	33.6	12.8	6.4	-	2.4	1.6	1.6	64.2
	40代 <n=125>	5.6	10.4	24.8	24.0	19.2	5.6	4.8	0.8	4.8	89.1
	50代 <n=125>	8.0	16.0	23.2	24.0	18.4	2.4	4.0	2.4	1.6	80.6
夫の 役職	役職なし <n=205>	11.7	42.4	28.8	11.2	3.9	1.5	0.5	-	-	50.6
	係長・主任クラス <n=142>	5.6	23.2	38.7	21.8	7.0	0.7	0.7	0.7	1.4	65.3
	課長クラス以上 <n=153>	4.6	8.5	19.6	19.6	26.1	4.6	8.5	3.3	5.2	101.9

夫が受給したこの冬のボーナスは手取り額でいくらだったのか、家計を預かるサラリーマン世帯の主婦に聞きました。

「50～75 万円未満」(28.8%) と「25～50 万円未満」(26.6%) がともに 3 割弱を占めています。以下、「75～100 万円未満」(16.8%)、「100～125 万円未満」(11.6%) が 1 割強、「25 万円未満」(7.8%) が 1 割弱などとなっています。

平均金額は 70.5 万円です。

- 妻の年代別に見ると、《20 代》は「25～50 万円未満」(44.8%) が 4 割強、「50～75 万円未満」(33.6%) が 3 割強を占めており平均は 48.0 万円、《30 代》は「25～50 万円未満」(35.2%) と「50～75 万円未満」(33.6%) がともに 3 割強を占め平均は 64.2 万円ですが、《40 代》《50 代》は「50～75 万円未満」(24.8%、23.2%) と「75～100

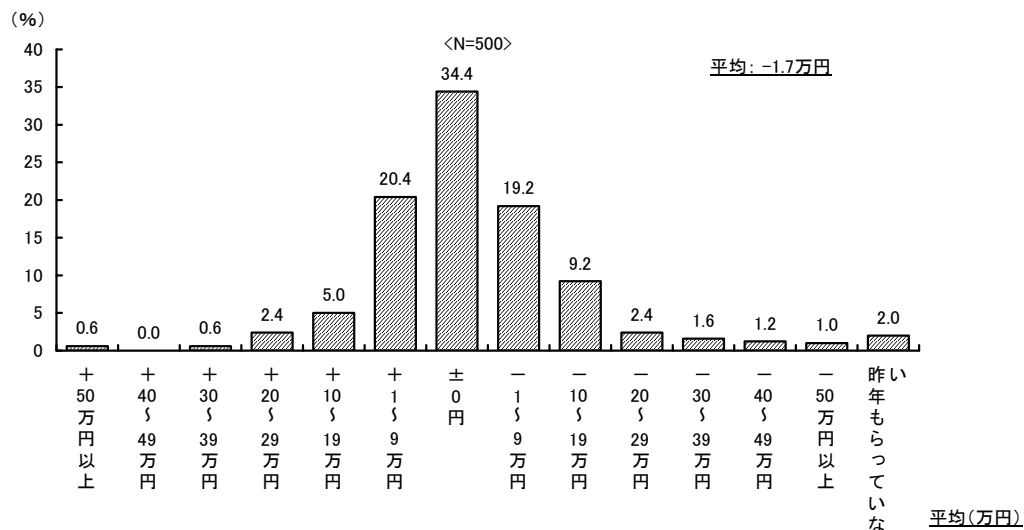
万円未満」(各 24.0%) がそれぞれ 2 割強を示しており、おおむね年齢とともに高額となる傾向を示しています。しかし、平均金額は《40 代》が 89.1 万円であるのに対して《50 代》は 80.6 万円と、《40 代》が上回っています。

- 夫の役職別に見ると、《役職なし》は「25～50 万円未満」(42.4%) が 4 割強、「50～75 万円未満」(28.8%) が 3 割弱を占め平均は 50.6 万円、《係長・主任クラス》は「50～75 万円未満」(38.7%) が 4 割弱、「25～50 万円未満」(23.2%) と「75～100 万円未満」(21.8%) が 2 割強を占め平均は 65.3 万円、《課長クラス以上》は「100～125 万円未満」(26.1%) が 2 割強、「50～75 万円未満」「75～100 万円未満」(各 19.6%) がほぼ 2 割を占め平均は 101.9 万円となっています。

2. 昨年冬のボーナスとの比較

『減った』(34.6%)が『増えた』(29.0%)を上回る。増減額の平均は-1.7万円。

図 2. この冬のボーナスの、昨年冬のボーナスとの増減比較



年代	増減額 (万円)														平均 (万円)	
	-50	-40	-30	-20	-10	+1	±0	-1	-10	-20	-30	-40	-50	昨日もらったより少ない		
20代 <n=125>	-	-	-	1.6	7.2	28.0	28.0	21.6	4.0	1.6	0.8	-	1.6	5.6	-0.4	
30代 <n=125>	0.8	-	0.8	2.4	4.8	25.6	30.4	21.6	4.8	4.0	0.8	2.4	1.6	-	-1.7	
40代 <n=125>	1.6	-	-	2.4	4.0	13.6	40.8	16.8	14.4	2.4	2.4	0.8	-	0.8	-2.1	
50代 <n=125>	-	-	1.6	3.2	4.0	14.4	38.4	16.8	13.6	1.6	2.4	1.6	0.8	1.6	-2.6	
夫の役職	役職なし <n=205>	-	-	-	0.5	6.8	25.9	29.8	24.9	6.3	1.5	0.5	1.0	0.5	2.4	-1.0
	係長・主任クラス <n=142>	0.7	-	0.7	1.4	2.1	21.1	35.9	19.7	7.7	3.5	2.1	0.7	1.4	2.8	-2.6
	課長クラス以上 <n=153>	1.3	-	1.3	5.9	5.2	12.4	39.2	11.1	14.4	2.6	2.6	2.0	1.3	0.7	-1.8

では、この冬のボーナスの手取り額は昨年の冬のボーナスと比べてどれくらい増えたり減ったりしたのでしょうか。昨年冬のボーナスと比較した増減額を聞きました。

増えたか減ったかを見ると、『減った』(34.6%)が3割強を占めており、『増えた』(29.0%)を上回っています。「±0円(昨年と同額)」(34.4%)は3割強です。

増減の額を見ると、『増えた』の中では「+1~9万円」(20.4%)が、『減った』の中では「-1~9万円」(19.2%)がそれぞれ2割程度を占めており最も多くなっていますが、「-10~19万円」(9.2%)もほぼ1割と少なくありません。

増減額の平均は-1.7万円で、昨年よりも減額しています。

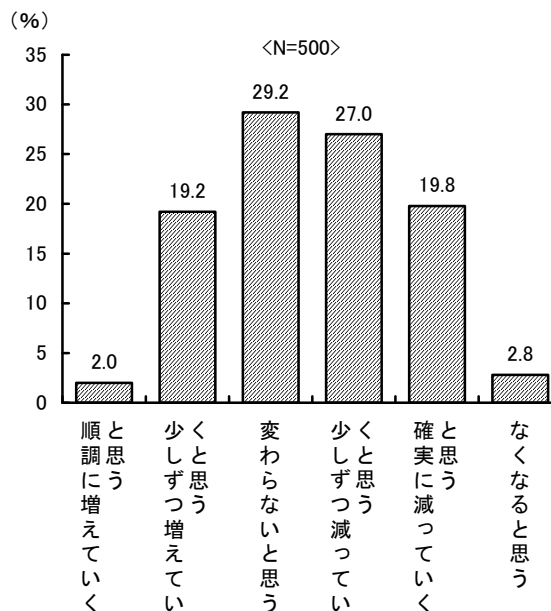
- 妻の年代別に見ると、《20代》は「+1~9万円」(28.0%)が3割弱を占めるなど、『増えた』(36.8%)が4割弱を占め『減った』(29.6%)を上回っていますが、「-1~9万円」(21.6%)も2割強を示しています。《30代》は『減った』(35.2%)と『増えた』(34.4%)がほぼ同率ですが、《40代》《50代》は「-1~9万円」(各16.8%)、「-10~19万円」(14.4%、13.6%)がともに1割強を示しており、『減った』(各36.8%)が4割弱と『増えた』(21.6%、23.2%)を大きく上回っています。増減額の平均は、《20代》が-0.4万円、《30代》が-1.7万円、《40代》が-2.1万円、《50代》が-2.6万円と、すべての年代でマイナスしており、しかも年齢の高い人ほど減った額が大きくなっています。

- 夫の役職別に見ると、《役職なし》は『減った』(34.6%)と『増えた』(33.2%)が拮抗しており増減額の平均は-1.0万円ですが、《係長・主任クラス》《課長クラス以上》は『減った』(35.2%、34.0%)が3割強で『増えた』(各26.1%)を上回っています。なかでも《係長・主任クラス》は減った額がとりわけ大きく-2.6万円で、《課長クラス以上》は-1.8万円です。

3. ボーナスの今後の見通し

「少しずつ減っていくと思う」(27.0%)が3割弱、「確実に減っていくと思う」(19.8%)が約2割。「少しずつ増えていくと思う」(19.2%)は約2割。

図 3. ボーナスの今後の見通し



年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>
順調に増えていく	4.0	3.2	-	0.8
少しずつ増えていく	34.4	24.0	10.4	8.0
変わらないと思う	21.6	36.0	32.0	27.2
少しずつ減っていく	22.4	22.4	33.6	29.6
確実に減っていく	13.6	12.8	22.4	30.4
なくなると思う	4.0	1.6	1.6	4.0

夫の役職	役職なし <n=205>	係長・主任クラス <n=142>	課長クラス以上 <n=153>
順調に増えていく	2.0	2.1	2.0
少しずつ増えていく	27.3	14.1	13.1
変わらないと思う	23.4	36.6	30.1
少しずつ減っていく	24.9	25.4	31.4
確実に減っていく	20.0	19.0	20.3
なくなると思う	2.4	2.8	3.3

夫のボーナスは今後どうなっていくと主婦は見通しているのでしょうか。夫のボーナスの今後の見通しについて聞きました。

「変わらないと思う」(29.2%)がほぼ3割を占めていますが、「少しずつ減っていくと思う」(27.0%)や「確実に減っていくと思う」(19.8%)との見通しも多く、「なくなると思う」(2.8%)を合わせた『減っていくと思う』(49.6%)がほぼ半数を占めています。一方、「少しずつ増えていくと思う」(19.2%)はほぼ2割で、「順調に増えていくと思う」(2.0%)を合わせても『増えていくと思う』(21.2%)は2割強にすぎません。

- 妻の年代別に見ると、《20代》は「少しずつ増えていくと思う」(34.4%)が3割強を占めており、『増えていくと思う』(38.4%)と『減っていくと思う』(40.0%)がほぼ同じ割合となっていますが、30代以上ではいずれも『減っていくと思う』が『増えていくと思う』を上回っており、しかも年齢の高い人ほど「確実に減っていくと思う」が多くなっています。なかでも《50代》は「確実に減っていくと思う」(30.4%)と「少しずつ減っていくと思う」(29.6%)がともに約3割を示すなど、『減っていくと

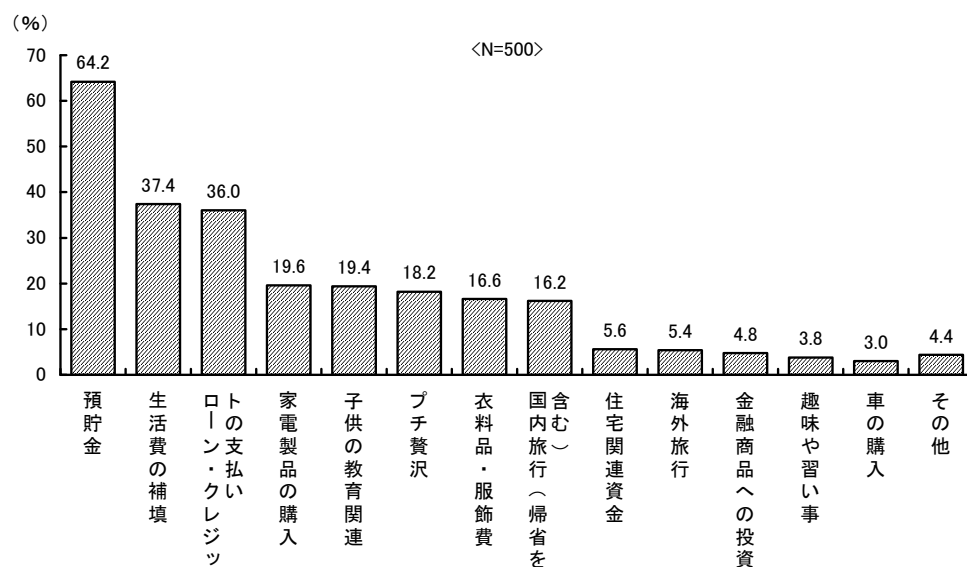
思う』(64.0%)が6割強を占めており、『増えていくと思う』(8.8%)を大きく上回っています。

- 夫の役職別に見ると、すべての役職で『減っていくと思う』が『増えていくと思う』を大きく上回っています。役職の高い人ほどこの傾向が顕著で、《課長クラス以上》では『減っていくと思う』(54.9%)が半数を超えており、他の役職を上回っています。

4. ボーナスの主な使い道

「預貯金」(64.2%)が突出。「生活費の補填」(37.4%)、「ローン・クレジットの支払い」(36.0%)が続く。

図 4. この冬のボーナスの主な使い道【複数回答】



年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>
年代	73.6	63.2	55.2	64.8
扶養中の子供の有無	58.3	73.9	55.0	72.7
住宅ローンの有無	60.1	66.4	71.1	63.1
ボーナス受給額	61.0	63.2	72.0	

サラリーマン世帯ではこの冬のボーナスをどのようなことに使うのでしょうか。ボーナスの主な使い道をあげてもらいました。

最も多いのは「預貯金」(64.2%)で、6割強と突出しています。以下、「生活費の補填」(37.4%)、「ローン・クレジットの支払い」(36.0%)が3割強、「家電製品の購入」(19.6%)、「子供の教育関連」(19.4%)などが2割弱の割合で続いています。

- 妻の年代別に見ると、《20代》は「預貯金」(73.6%)がとりわけ多く7割強となっています。一方、《40代》は「ローン・クレジットの支払い」(53.6%)、「生活費の補填」(41.6%)、「子供の教育関連」(38.4%)が他の年代を上回っているのに対して、「預貯金」(55.2%)は半数強にとどまり、「プチ贅沢」(11.2%)も他の年代を下回っています。また、《30代》も「ローン・クレジットの支払い」(41.6%)、「生活費の

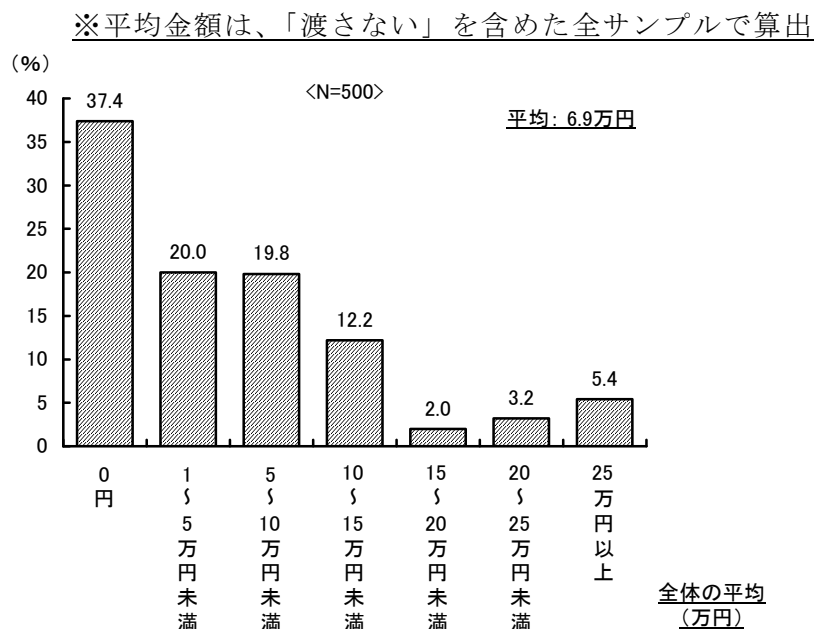
補填」(40.8%) がともに 4 割強と、《40 代》に次いで多くなっています。

- 独立していない子供(扶養中の子供)の有無別に見ると、《いない人》は「預貯金」(73.9%)、「プチ贅沢」(23.9%)が《いる人》(58.3%、14.7%)を上回っているのに対して、《いる人》は「ローン・クレジットの支払い」(42.0%)、「子供の教育関連」(29.8%)が《いない人》(26.1%、2.1%)を大きく上回っています。また、「生活費の補填」も《いる人》(40.4%)が《いない人》(32.4%)を上回っています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、《ローンのない人》は「預貯金」(72.7%)が 7 割を超えていますが、《ローンのある人》では「ローン・クレジットの支払い」(58.8%)が最も多く、「預貯金」(55.0%)は半数強にとどまっています。また、「生活費の補填」(43.8%)、「子供の教育関連」(24.2%)も《ローンのない人》(31.5%、15.0%)を上回っています。
- 世帯年収別に見ると、《800~1,000 万円未満》は「預貯金」(71.1%)がとりわけ多く、7 割を超えています。「家電製品の購入」(25.6%)も他の層を上回っています。また、《1,000 万円以上》は「国内旅行(帰省を含む)」(24.3%)、「子供の教育関連」(28.2%)などが他の層を上回っています。《600~800 万円未満》《600 万円未満》は「生活費の補填」(42.9%、41.5%)が 4 割強を示し、《1,000 万円以上》(26.2%)や《800~1,000 万円未満》(34.4%)を上回っています。
- ボーナス受給額別に見ると、「預貯金」「子供の教育関連」「家電製品の購入」「国内旅行(帰省を含む)」「衣料品・服飾費」「海外旅行」「金融商品への投資」など多くの項目は受給額の高い人ほど多く《100 万円以上》が最も高率を示していますが、「生活費の補填」「ローン・クレジットの支払い」は《50~100 万円未満》(42.1%、40.8%)が他を上回っています。

5. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額

「渡さない」(37.4%)は4割弱、6割強が『渡した』(62.6%)。渡した額は「1～5万円未満」(20.0%)、「5～10万円未満」(19.8%)が約2割ずつ。平均は6.9万円。

図 5. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額



年代	サンプル数 (n)	金額 (万円)							全体の平均 (万円)
		0	1～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25以上	
年代	20代 <n=125>	34.4	31.2	19.2	8.0	1.6	0.8	4.8	4.7
	30代 <n=125>	35.2	27.2	18.4	8.0	0.8	2.4	8.0	7.7
	40代 <n=125>	44.0	12.0	18.4	17.6	1.6	2.4	4.0	5.7
	50代 <n=125>	36.0	9.6	23.2	15.2	4.0	7.2	4.8	9.6
ボーナス受給額	50万円未満 <n=172>	39.0	35.5	14.5	7.0	1.7	0.6	1.7	3.1
	50～100万円未満 <n=228>	38.2	15.4	27.2	9.2	1.8	2.6	5.7	6.1
	100万円以上 <n=100>	33.0	4.0	12.0	28.0	3.0	9.0	11.0	15.3

今回のボーナスの中から夫に小遣いとして渡した金額を具体的に聞きました。

6割強が『渡した』(62.6%)と回答しており、「渡さない(0円)」(37.4%)は4割弱となっています。

夫に渡した金額は、「1～5万円未満」(20.0%)、「5～10万円未満」(19.8%)が約2割ずつを占め、「10～15万円未満」(12.2%)が1割強となっています。

平均は6.9万円です。

- 妻の年代別に見ると、《40代》は「渡さない」(44.0%)が4割強を占め、他の年代を上回っています。渡した額の平均は、《20代》が4.7万円、《30代》が7.7万円、《40代》が5.7万円、《50代》が9.6万円となっており、おおむね年齢が高くなるにしたがって高額になっていますが、《40代》は《30代》を下回っています。
- ボーナス受給額別に見ると、《50万円未満》では渡した金額は「1～5万円未満」(35.5%)が3割強を占め平均金額は3.1万円ですが、《50～100万円未満》では「5～10万円未満」(27.2%)が3割弱を占め平均金額は6.1万円、《100万円以上》では「10～15万円未満」(28.0%)が3割弱を占め平均金額は15.3万円となっています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

芸能界のトップは「エド・はるみ」と「羞恥心」（各 39 件）。スポーツ界のトップは「石川遼」（88 件）。それ以外のトップは「自分」（15 件）。

表 1. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

芸能界			スポーツ界			その他		
順位	人 名	件数	順位	人 名	件数	順位	人 名	件数
1	エド・はるみ	39	1	石川遼	88	1	自分	15
〃	羞恥心	39	2	北島康介	46	2	ノーベル賞受賞者	9
3	上地雄輔	22	3	上野由岐子	38	3	益川敏英教授	6
4	宮崎あおい	17	4	浅田真央	23	4	橋下徹大阪府知事	4
5	嵐	6	5	高橋尚子	13	5	オバマ次期大統領	3
〃	E X I L E	6	6	イチロー	12	〃	麻生太郎総理	3
7	みのもんだ	5	7	錦織圭	10	〃	母	3
8	S M A P	4	8	太田雄貴	8			
〃	ジェロ	4	9	女子ソフトボール日本代表	7			
〃	タモリ	4	10	クルム伊達公子	6			
〃	福山雅治	4						
〃	水谷豊	4						

2008 年に大いに活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、それ以外の分野に分けて自由にあげてもらいました。

芸能界では第 1 位に「エド・はるみ」と「羞恥心」（各 39 件）が同数であげられています。第 3 位は羞恥心のメンバーである「上地雄輔」（22 件）、第 4 位は「宮崎あおい」（17 件）となっています。

スポーツ界では第 1 位に、史上最年少で 1 億円プレーヤーになった「石川遼」（88 件）があげられており、全体でも他を圧倒してのトップとなっています。第 2 位には「北島康介」（46 件）、第 3 位には「上野由岐子」（38 件）の北京オリンピック金メダリストがあげられています。第 4 位に「浅田真央」（23 件）が続いています。

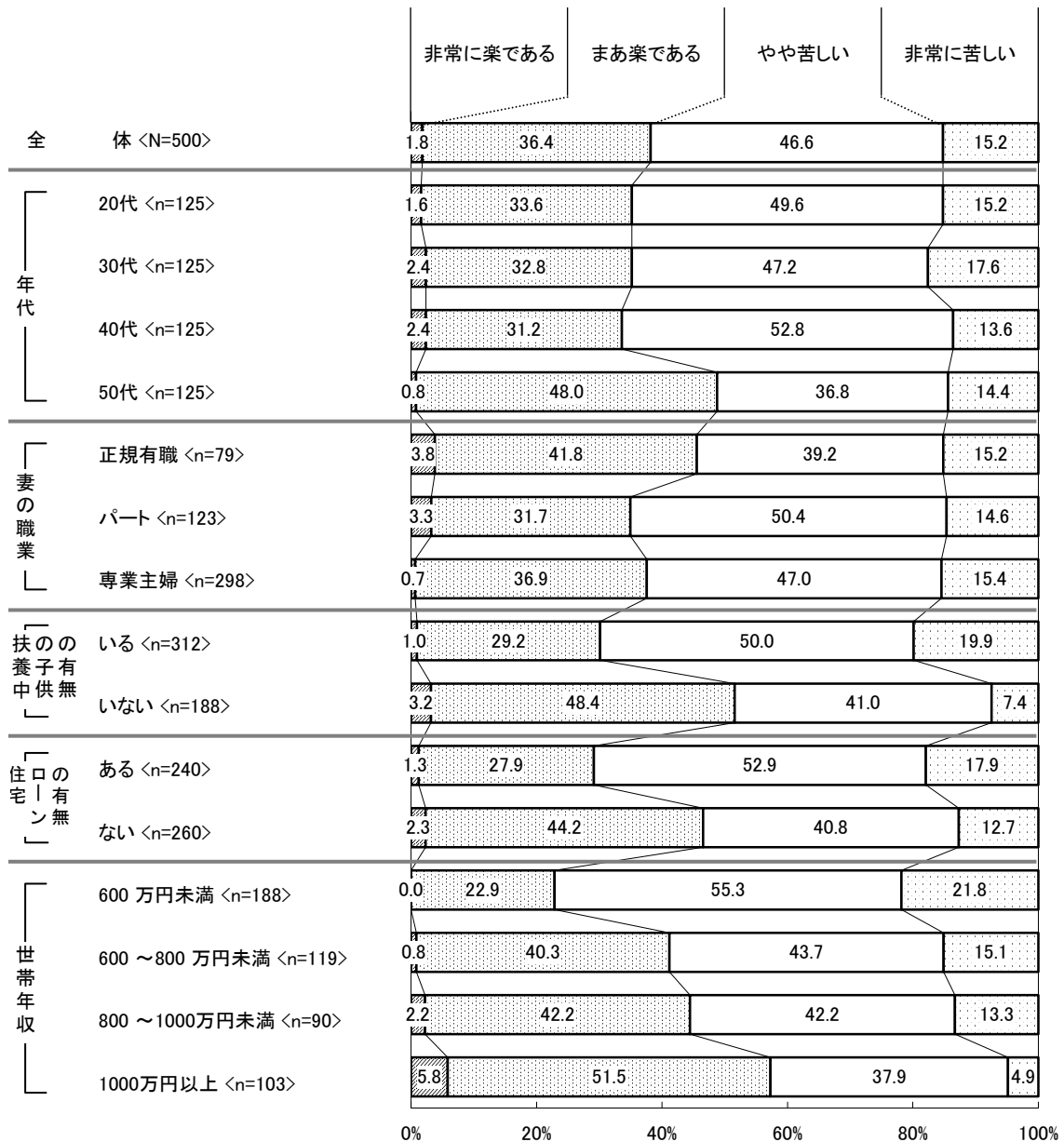
それ以外の分野では「自分」（15 件）が最も多く、次いで「ノーベル賞受賞者」（9 件）となっています。さらに、ノーベル賞受賞者のひとりである「益川敏英教授」（6 件）は第 3 位にあげられています。

〔2〕 わが家の家計

1. 現状での家計の苦しさ

『楽である』(38.2%)は4割弱。『苦しい』(61.8%)が6割強を占める。

図 6. 現状での家計の苦しさ



家計をやりくりしている主婦は、現在の家計を楽と感じているのでしょうか、苦しいと感じているのでしょうか。サラリーマン世帯の家計の現状について聞きました。

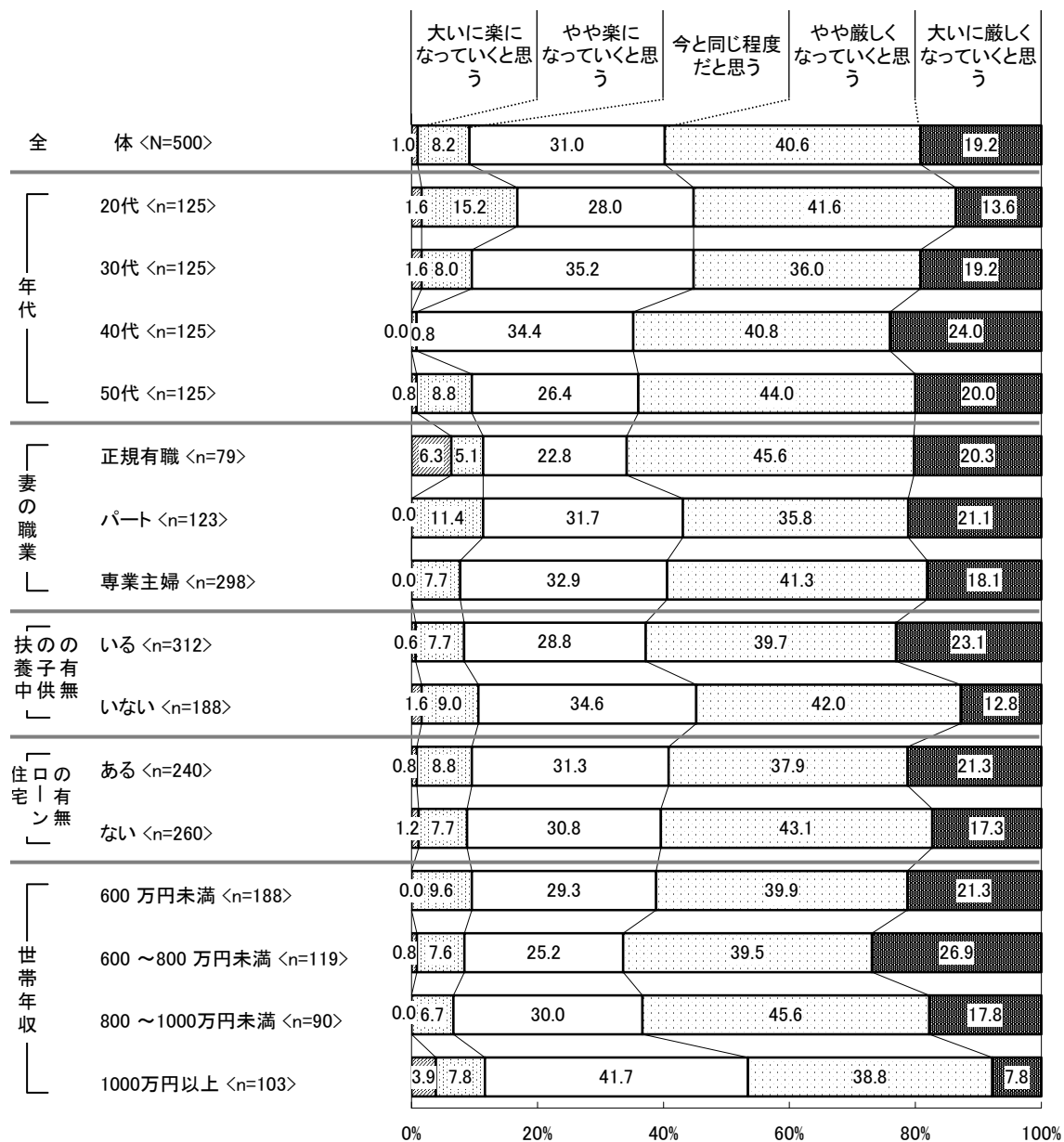
「やや苦しい」(46.6%)が半数弱を占めており、「非常に苦しい」(15.2%)を合わせると『苦しい』(61.8%)が6割強を占め、「非常に楽である」(1.8%)と「まあ楽である」(36.4%)を合わせた『楽である』(38.2%)を大きく上回っています。

- 妻の年代別に見ると、《20代》《30代》《40代》はいずれも「やや苦しい」(49.6%、47.2%、52.8%) が半数前後、「非常に苦しい」(15.2%、17.6%、13.6%) が1割強と『苦しい』が6割強を占めており、『楽である』は3割強にとどまっていますが、《50代》では『苦しい』(51.2%) と『楽である』(48.8%) がほぼ同じ割合となっています。
- 妻の職業別に見ると、《正規有職》は『楽である』(45.6%) が4割強、『苦しい』(54.4%) が半数強ですが、《パート》《専業主婦》では『苦しい』(65.0%、62.4%) が6割強を占めており、『楽である』(35.0%、37.6%) は3割強にとどまっています。
- 独立していない子供(扶養中の子供)の有無別に見ると、《いない人》は『楽である』(51.6%) が半数強、『苦しい』(48.4%) が半数弱とほぼ同じ割合となっていますが、《いる人》では『楽である』(30.1%) は約3割にとどまり、「やや苦しい」(50.0%) が半数、「非常に苦しい」(19.9%) が約2割と、『苦しい』(69.9%) が約7割を占めています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、《ローンのない人》は『楽である』(46.5%) が半数弱を占め『苦しい』(53.5%) は半数強ですが、《ローンのある人》では『楽である』(29.2%) は3割弱にとどまり、「やや苦しい」(52.9%) が半数強、「やや苦しい」(17.9%) が2割弱と、『苦しい』(70.8%) が約7割を占めています。
- 世帯年収別に見ると、《1,000万円以上》では『楽である』(57.3%) が6割弱を占めていますが、収入額が低くなるに従って『楽である』の割合が下がり、《600万円未満》では『楽である』(22.9%) は2割強にしかすぎず、「やや苦しい」(55.3%) が半数強、「非常に苦しい」(21.8%) が2割強と、『苦しい』(77.1%) が8割弱を占めています。

2. 今後の家計の見通し

『厳しくなっていく』(59.8%) が約 6 割。『楽になっていく』(9.2%) は約 1 割。

図 7. 今後の家計の見通し



今後家計はどのようになっていくと思うか、今後の見通しについて聞いてみました。最も多いのは「やや厳しくなっていくと思う」(40.6%) で、約 4 割を占めています。また、「大いに厳しくなっていくと思う」(19.2%) がほぼ 2 割を示しており、両者を合わせると『厳しくなっていくと思う』(59.8%) との悲観的な見通しが約 6 割を占めます。「大いに楽にならなっていくと思う」(1.0%) はごくわずかで、「やや楽にならなっていくと思う」(8.2%) を合わせても『楽にならなっていくと思う』(9.2%) と楽観的に見通している人は 1 割弱にすぎません。なお、「今と同じ程度だと思う」(31.0%) は約 3 割です。

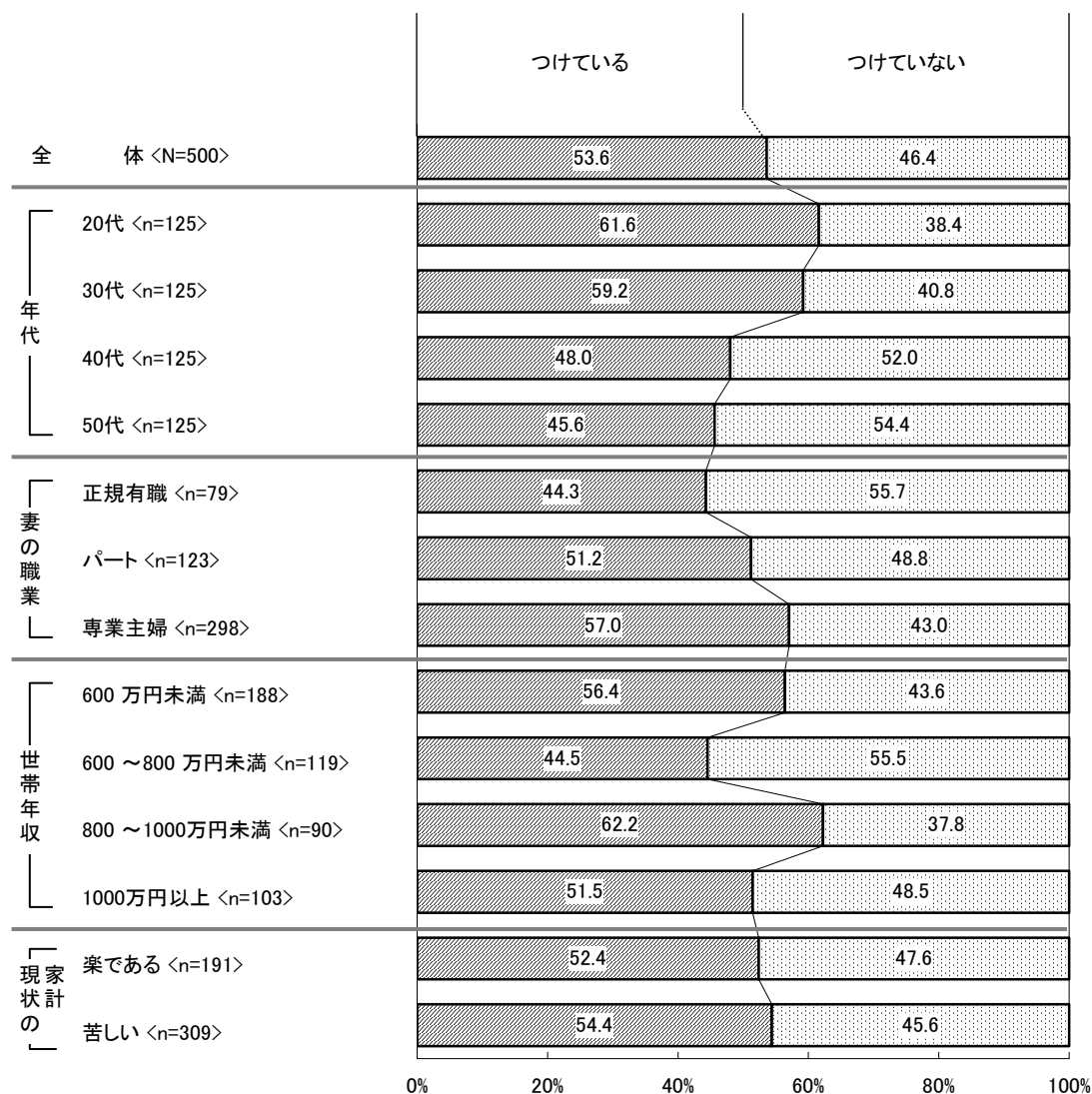
- 妻の年代別に見ると、《20代》《30代》は『厳しくなっていくと思う』（各 55.2%）がともに 5 割強ですが、《40代》（64.8%）、《50代》（64.0%）では 6 割強を示しています。なかでも《40代》は『楽になっていくと思う』（0.8%）がわずかに 1%弱にしかすぎません。
- 妻の職業別に見ると、いずれの職業でも『厳しくなっていくと思う』が半数を超え、『楽になっていくと思う』は 1 割前後と、悲観的な見通しが大きく上回っています。なかでも《正規有職》は『厳しくなっていくと思う』（65.8%）がとりわけ多く、《パート》《専業主婦》（56.9%、59.4%）を上回っています。
- 独立していない子供（扶養中の子供）の有無別に見ると、《いない人》は『厳しくなっていくと思う』（54.8%）が半数強ですが、《いる人》（62.8%）では 6 割強を占めています。なかでも「大いに厳しくなっていくと思う」は《いる人》（23.1%）では 2 割強を示しており《いない人》（12.8%）を上回っています。
- 住宅ローンの有無別では、さほど顕著な違いは見られません。
- 世帯年収別に見ると、《1,000 万円以上》は「今と同じ程度だと思う」（41.7%）が他を大きく上回り、『厳しくなっていくと思う』（46.6%）が 4 割強にとどまっていますが、《600 万円未満》《600～800 万円未満》《800～1,000 万円未満》では『厳しくなっていくと思う』（61.2%、66.4%、63.3%）がいずれも 6 割強を占めています。なかでも《600～800 万円未満》では「大いに厳しくなっていくと思う」（26.9%）がとりわけ多くなっています。

〔3〕 わが家の生活防衛策

1. 家計簿をつけているか

「つけている」(53.6%)が半数強。《20代》(61.6%)《30代》(59.2%)では6割前後を占める。

図 8. 家計簿をつけているか



日頃から家計管理のために家計簿をつけているのかについて聞いてみました。

「つけている」(53.6%)が半数強で、「つけていない」(46.4%)は4割強となっています。

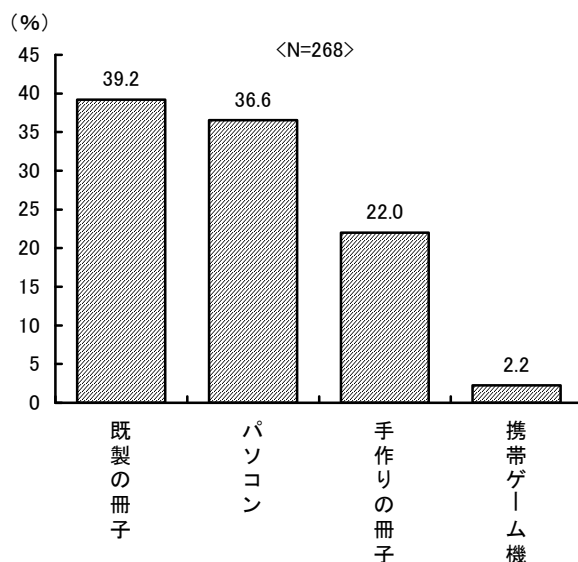
- 妻の年代別に見ると、《20代》は「つけている」(61.6%)が6割強を占めていますが、《30代》(59.2%)では6割弱、《40代》(48.0%)では半数弱、《50代》(45.6%)では4割強と、年齢が高くなるにしたがって「つけている」が少なくなっています。

- 妻の職業別に見ると、《専業主婦》は「つけている」(57.0%)が6割弱を占めていますが、《パート》(51.2%)では半数強、《正規有職》(44.3%)では4割強にとどまっています。
- 世帯年収別に見ると、《800～1,000万円未満》は「つけている」(62.2%)が6割強を占めていますが、《600～800万円未満》(44.5%)では4割強にすぎません。《600万円未満》(56.4%)、《1,000万円以上》(51.5%)は半数強です。
- 家計の現状別では、さほど大きな違いは見られません。

2. 家計簿を何につけているか

「既製の冊子」(39.2%)が約4割、小差で「パソコン」(36.6%)が続く。「手作りの冊子」(22.0%)は2割強。

図 9. 家計簿を何につけているか (家計簿をつけている人のみ)



	割合 (%)				
	既製の冊子	パソコン	手作りの冊子	携帯ゲーム機	
年代	20代 <n=77>	40.3	32.5	24.7	2.6
	30代 <n=74>	44.6	33.8	17.6	4.1
	40代 <n=60>	35.0	48.3	16.7	-
	50代 <n=57>	35.1	33.3	29.8	1.8
妻業の職	正規有職 <n=35>	25.7	54.3	20.0	-
	パート <n=63>	39.7	39.7	20.6	-
	専業主婦 <n=170>	41.8	31.8	22.9	3.5

前項で家計簿をつけていると回答した人に、さらに家計簿は何につけているのかについても聞きました。

「既製の冊子(市販品、雑誌の付録)」(39.2%)がほぼ4割を占めており、小差で「パソコン」(36.6%)が続いています。「手作りの冊子(ノート等)」(22.0%)は2割強となっており、「携帯ゲーム機」(2.2%)はごくわずかです。

ちなみに、『冊子』と『デジタル機器』の割合を比べると、『冊子』(61.2%)が6割強を占め、『デジタル機器』(38.8%)は4割弱です。

- 妻の年代別に見ると、《20代》《30代》では「既製の冊子」(40.3%、44.6%)が4割強で最も多くなっていますが、《40代》は「パソコン」(48.3%)が半数弱を占めトップです。《50代》は「手作りの冊子」(29.8%)もほぼ3割を示しており、「既製の冊子」(35.1%)や「パソコン」(33.3%)とほとんど差がありません。
- 妻の職業別に見ると、《正規有職》は「パソコン」(54.3%)が半数強を占め最も多くなっていますが、《専業主婦》は「既製の冊子」(41.8%)が4割強を占めトップです。《パート》は「既製の冊子」と「パソコン」(各39.7%)がともに約4割で同じ割合となっています。

3. 2008年景気後退の中で生活防衛のためにあえてしたこと

“株式投資”（25件）、“外貨購入”“外貨預金”（各16件）がトップ3。

表 2. 2008年景気後退の中で生活防衛のためにあえてしたこと

順位	内 容	件数
1	株式投資を始めた	25
2	外貨を購入した	16
〃	外貨預金を始めた／外貨預金の額を増やした	16
4	F Xを始めた	9
5	投資信託を始めた	5
6	インターネットオークションを始めた	4
〃	国債／地方債を購入した	4
〃	利率のよいインターネットバンクに預け替えた	4
9	オンラインで個人輸入した	3
〃	金取引を始めた	3

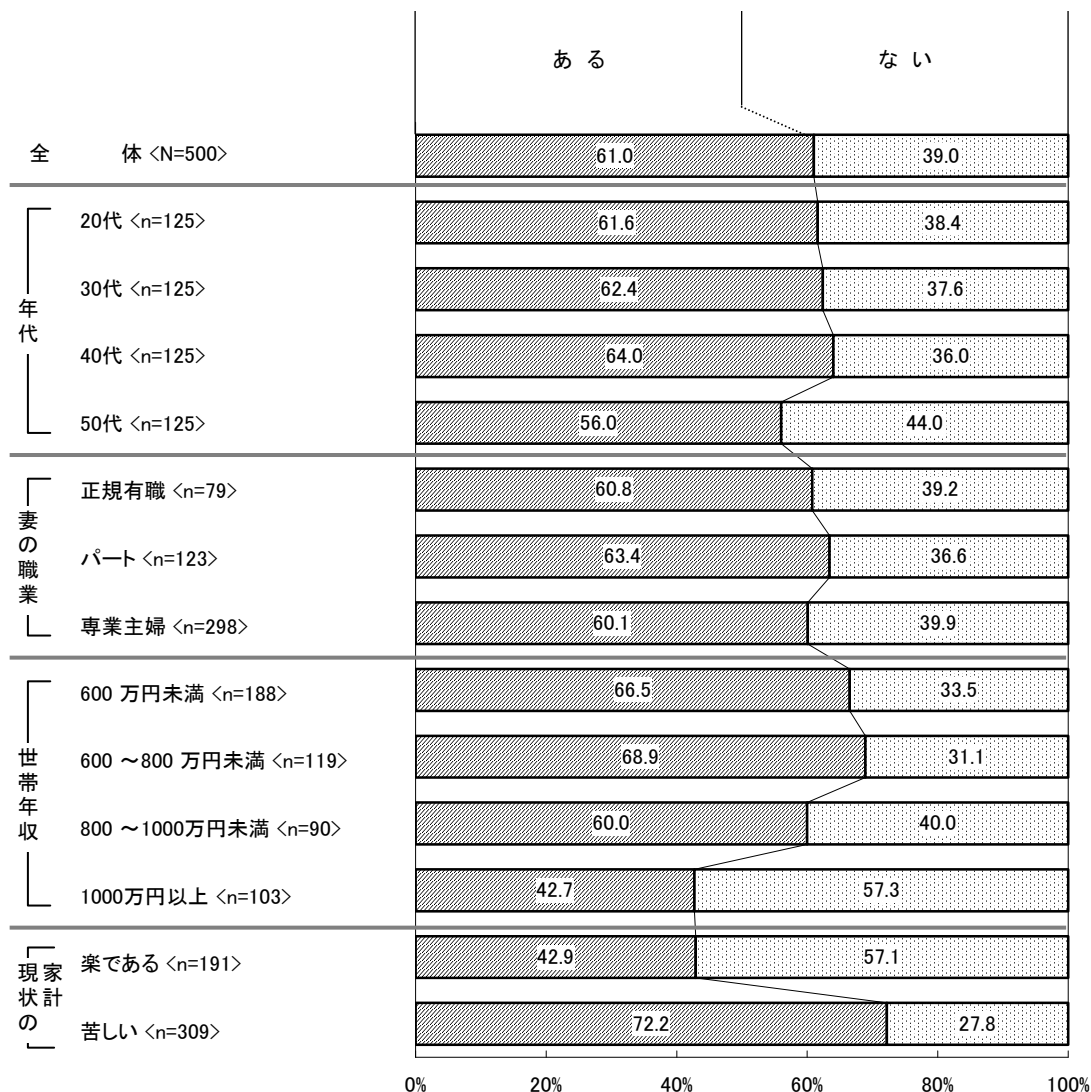
2008年、景気の後退が言われた中で、それを逆手にとって生活防衛のためにあえてしたことやチャレンジしたことがあれば具体的にあげていただきました。

最も多いのは「株式投資を始めた」（25件）です。次いで「外貨を購入した」「外貨預金を始めた／外貨預金の額を増やした」（各16件）が多くあげられています。そのほか、「F Xを始めた」（9件）、「投資信託を始めた」（5件）などもあげられています。

4. 2009年に家計に大きく打撃を与えそうな心配ごとの有無

「ある」(61.0%)が6割強。「ない」(39.0%)は4割弱。

図 10. 2009年に家計に大きく打撃を与えそうな心配ごとの有無



2009年に家計に大きな打撃を与えそうで心配なことがあるか聞いてみました。

6割強が「ある」(61.0%)と回答しており、「ない」(39.0%)は4割弱となっています。

- 妻の年代別に見ると、《50代》では「ある」(56.0%)が半数強となっていますが、《20代》《30代》《40代》は「ある」(61.6%、62.4%、64.0%)が6割強を占めています。
- 妻の職業別に見ると、いずれの職業でも「ある」が6割強を占めており、ほとんど違いは見られません。
- 世帯年収別に見ると、《1,000万円以上》では「ある」(42.7%)は4割強にとどまり、

「ない」(57.3%)が6割弱を占めていますが、《600～800万円未満》《600万円未満》では「ある」(68.9%、66.5%)が7割弱を占め、《800～1,000万円未満》(60.0%)も6割を示しています。

- 家計の現状別に見ると、《楽と感じている人》では「ある」(42.9%)は4割強にとどまり、「ない」(57.1%)が6割弱を占めていますが、《苦しいと感じている人》では「ある」(72.2%)が7割強を占めています。

5. 2009年に家計に大きく打撃を与えそうな心配ごとの具体的内容

「給与が下がる」(68件)など“不況による収入の減少”がトップ。「リストラ」(29件)など“不況による会社の経営悪化”、「子供が進学する／教育費が増える」(41件)など“支出の増加”も多い。

表 3. 2009年に家計に大きく打撃を与えそうで心配なこと（心配ごとがある人のみ）

順位	内 容	件数
1	不況による収入の減少	<110>
	給与が下がる／カットされる	68
	残業が減り収入が減る	15
	ボーナスがカットされる	13
	給与が上がらない	6
	残業代のカット／サービス残業が増える	5
	妻の収入が減る	3
2	不況による会社の経営悪化	<60>
	リストラされる	29
	会社の業績が悪化している	10
	妻が失職する	9
	夫の会社が倒産する	6
	就職難で子供が就職できない	4
	妻の勤め先が業績悪化、倒産する	2
3	支出の増加	<54>
	子供が進学する／教育費が増える	41
	ローンの返済額が上がる	7
	家族の病気で治療費がかかる	5
4	マンションの修繕積立費が上がる	1
	物価上昇	<19>
5	物価が上昇する	19
	出産	<17>
5	出産で費用がかかる	16
	妻が産休に入り収入が減る	1
5	定年退職	<17>
	夫の定年退職が近い	14
	親（舅）が定年退職で収入が減る	2
7	退職金が減額される	1
	不況による投資の損失	<12>
	投資に失敗した	6
	円高により外貨預金で損失した	2
7	株価が下落したまま上昇しない	2
	投資した資産の評価額が下落した	2
	税金の引き上げ	<6>
8	消費税が引き上げられる	3
	税金が上がる	3
9	実質収入の目減り	<5>
	預貯金の金利が低い	3
	年金が目減りする	2

2009年に家計に大きな打撃を与えそうで心配なことがあると回答した主婦に、心配ごとの内容を具体的にあげてもらいました。

最も多いのは「給与が下がる／カットされる」(68件)で、他を圧倒しています。そのほか、“不況による収入の減少”に関する内容として「残業が減り収入が減る」(15件)、「ボーナスがカットされる」(13件)、「給与が上がらない」(6件)、「残業代のカット／サービス残業が増える」(5件)、「妻の収入が減る」(3件)があげられています。“収入の減少”は最大の心配ごとであることを表しています。

また、“不況による会社の経営悪化”に関連する内容も多く、具体的には「リストラされる」(29件)、「会社の業績が悪化している」(10件)、「妻が失職する」(9件)、「夫の会社が倒産する」(6件)、「就職難で子供が就職できない」(4件)、「妻の勤め先の業績が悪化、倒産する」(2件)などがあげられています。

さらに、「子供が進学する／教育費が増える」(41件)は2番目に多い内容となっています。サラリーマン世帯には子供の教育関連の費用が大きな負担となっているようです。このほか、“支出の増加”に関する内容として、「ローンの返済額が上がる」(7件)などがあげられています。

「物価が上昇する」(19件)や、「出産で費用がかかる」(16件)などの心配も少なくありません。

そのほか、「夫の定年退職が近い」(14件)、「親(舅)が定年退職で収入が減る」(2件)、「退職金が減額される」(1件)の“定年退職”や、「投資に失敗した」(6件)、「円高により外貨預金で損失した」「株価が下落したまま上昇しない」「投資した資産の評価額が下落した」(各2件)など“不況による投資の損失”に関する内容もあげられています。“定年退職”はサラリーマン世帯にとって避けられない心配ごとです。

6. 2009 年生活防衛のためにしたいこと

「節約する、出費を抑える」(81 件)「食費を抑える」(47 件)など“節約”が圧倒的。
「貯金する／貯金の額を増やす」(43 件)などの“貯蓄”、「自分も働く」(24 件)「パートに出る、アルバイトする」(23 件)などの“妻の労働”も多い。

表 4. 2009 年に生活防衛のためにしたいこと

順位	内 容	件数
1	節約	<257>
	節約する、出費を抑える	81
	食費を抑える	47
	生活費全般を抑える	28
	外食を減らす	25
	旅行、レジャーを減らす	20
	光熱費を抑える	12
	贅沢品を買わない／贅沢をしない	10
	無駄なものを買わない	9
	衣料品の購入を抑える	8
	家庭菜園を始める	5
	娯楽費を抑える	4
	教育費を抑える	3
	弁当を持参する	3
リサイクルショップで購入する	2	
2	貯蓄	<67>
	貯金する／貯金の額を増やす	43
	預貯金を預け替える	20
	外貨預金をする	4
3	妻の労働	<66>
	自分も働く	24
	パートに出る、アルバイトする	23
	内職をする	7
	自分の仕事量を増やす	6
	サイドビジネスを始める	3
	収入の多い所に転職する	3
4	投資	<22>
	投資を始める、金融商品を購入する	22
5	住宅ローンの見直し	<14>
	住宅ローンを繰り上げ返済する	9
	住宅ローンを借り換える	5
	その他	
	保険を見直す	5
	夫の小遣いを減らす	3
	家計簿をつける	2
	オークションで不要品を売る	2

2009 年にわが家の生活防衛のためにしたいと思っていることを具体的にあげてもらいました。

最も多いのは「節約する、出費を抑える」(81 件)で、突出しています。そのほか、“節約”に関する内容として、「食費を抑える」(47 件)、「生活費全般を抑える」(28 件)、「

「光熱費を抑える」(12件)、「無駄なものを買わない」(9件)、「衣料品の購入を抑える」(8件)、「娯楽費を抑える」(4件)、「教育費を抑える」(3件)があげられています。また、「外食を減らす」(25件)、「旅行、レジャーを減らす」(20件)、「贅沢品を買わない／贅沢をしない」(10件)なども“節約”のひとつと言えます。このように、生活防衛のためにしたいことでは“節約”が圧倒的です。

また、「貯金する／貯金の額を増やす」(43件)、「預貯金を預け替える」(20件)、「外貨預金をする」(4件)といった“貯蓄”に関する内容も多くあげられています。

さらに、「自分も働く」(24件)、「パートに出る、アルバイトする」(23件)、「内職をする」(7件)、「自分の仕事量を増やす」(6件)などの“妻の労働”も少なくありません。

そのほか、「投資を始める、金融商品を購入する」(22件)や、「住宅ローンを繰り上げ返済する」(9件)「住宅ローンを借り換える」(5件)といった“住宅ローンの見直し”に関する内容、「保険を見直す」(5件)などがあげられています。

7. 2009 年の家計天気予報

「曇り」(189 件) が突出。以下、「曇りのち雨」(51 件)、「晴れ」(40 件)、「曇りのち晴れ」(31 件)、「晴れ時々曇り」(30 件) が続く。

表 5. 2009 年のわが家の家計天気予報、トップ 5

順位	内 容	件数
1	曇り	189
2	曇りのち雨	51
3	晴れ	40
4	曇りのち晴れ	31
5	晴れ時々曇り	30

2009 年のわが家の家計はどのようになると予想しているのか、天気予報風に例えてもりました。

最も多いのは「曇り」(189 件) で、突出しています。以下、「曇りのち雨」(51 件)、「晴れ」(40 件)、「曇りのち晴れ」(31 件)、「晴れ時々曇り」(30 件) が続いています。

また、使用されている天候を表す言葉では「曇り」(延べ 375 回：以下同じ) が断然多く、次いで「晴れ」(150 回)、「雨」(129 回) が多く使われています(※トップ 5 だけでなく、全回答で集計)。

8. 国民生活防衛のための政策

「育児給付金の支給」（36 件）など“補助金等の支給・給付、費用の無料化”がトップ。“消費税率の引き下げ・廃止”“所得税減税”が続く。

表 6. あなたが総理大臣なら国民生活を守るために実施しようと思う政策

順位	内 容	件数
1	補助金等の支給・給付、費用の無料化	<120>
	子供がいる世帯に育児給付金を支給する	36
	医療費の補助、医療控除額を増やす	17
	子供の教育費、大学進学費用を補助する	14
	定額給付金を増額する	11
	子育て世帯に手厚い保障をする	9
	子供のいる世帯は減税する	9
	年金額をアップする／年金をきちんと支給する	8
	児童手当の期間を延長する／増額する	4
	教育関連の費用を無料にする	4
	出産費用を無料にする	4
子供の医療費を無料にする	4	
2	消費税率の引き下げ・廃止	<77>
	消費税を引き下げる	31
	消費税を廃止する	30
	期間限定で消費税を下げる／なくす	10
2	消費税率を上げない（現在の税率を維持する）	6
	所得税減税	<77>
	所得税等の税金を下げる	28
	定率減税を実施する	21
4	配偶者控除を引き上げる	16
	高額所得者から税金を多く徴収する（累進課税方式にする）	12
	公費の抑制	<73>
	公費の無駄遣いをなくす	34
	議員報酬額を下げる	11
	議員の数を削減する	9
	公務員の給与を下げる	7
	公務員の数を削減する	6
公務員の天下りをなくし無駄遣いをさせない	3	
道路特定財源を一般財源化し無駄遣いさせない	3	
5	消費税率を品目で差をつける	<37>
	生活必需品や食料品の消費税率を下げ贅沢品は上げる	23
	贅沢品、たばこに対する消費税を引き上げる	14
6	消費税率の引き上げ	<30>
	消費税率を上げて社会保障を厚くする	26
	消費税を上げて所得税等の税金を廃止する	4
7	雇用の安定	<25>
	雇用の確保を進める	20
	派遣社員を禁止し正社員にする	5
8	社会保障の充実	<21>
	社会保障を充実させる	7
	福祉を充実させる	5
	高齢者への保障を充実させる	3
	失業者への支援を厚くする	3
介護報酬を増やす	3	
	その他	
	定額給付金をやめる	9
	医療を保護する	7
	農業振興を行う／食糧の自給率を上げる	4

もしあなたが総理大臣なら国民の生活を守るためにどのような政策を実施しようと思うか、具体的にあげてもらいました。

“補助金等の支給・給付、費用の無料化”に関する内容が最も多く多くあげられています。具体的には、「子供がいる世帯に育児給付金を支給する」(36件)、「医療費の補助、医療控除額を増やす」(17件)、「子供の教育費、大学進学費用を補助する」(14件)、「定額給付金を増額する」(11件)、「子育て世帯に手厚い保障をする」「子供のいる世帯は減税する」(各9件)、「年金額をアップする／年金をきちんと支給する」(8件)、「児童手当の期間を延長する／増額する」「教育関連の費用を無料にする」「出産費用を無料にする」「子供の医療費を無料にする」(各4件)となっています。

“消費税率の引き下げ・廃止”に関する内容も多くあげられています。具体的には「消費税を引き下げる」(31件)、「消費税を廃止する」(30件)、「期間限定で消費税を下げる／なくす」(10件)、「消費税を上げない(現在の税率を維持する)」(6件)です。

さらに、税金ということでは“所得税減税”に関する内容も多く、具体的に「所得税等の税金を下げる」(28件)、「定率減税を実施する」(21件)、「配偶者控除を引き上げる」(16件)、「高額所得者から税金を多く徴収する(累進課税方式にする)」(12件)があげられています。

また、「公費の無駄遣いをなくす」(34件)も多くあげられています。無駄遣いということではありませんが、“公費の抑制”ということでは「議員報酬額を下げる」(11件)、「議員の数を削減する」(9件)、「公務員の給与を下げる」(7件)、「公務員の数を削減する」(6件)といった内容もあげられています。

また、消費税については、「生活必需品や食料品の消費税率を下げ贅沢品は上げる」(23件)、「贅沢品、たばこに対する消費税を引き上げる」(14件)といった“消費税率を品目で差をつける”といった内容もあります。

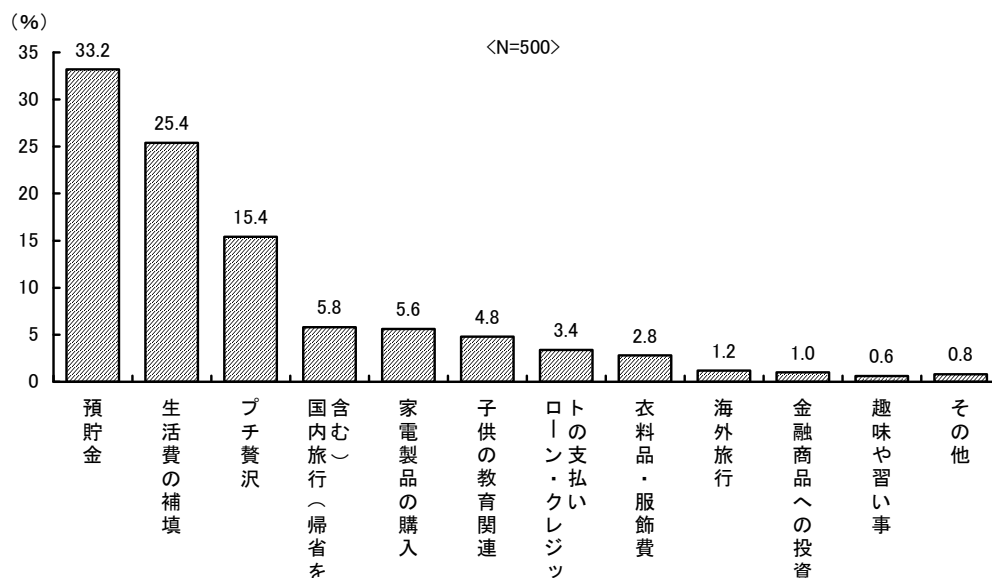
その一方で、「消費税率を上げて社会保障を厚くする」(26件)、「消費税を上げて所得税等の税金を廃止する」(4件)と、“消費税率の引き上げ”もあげられています。

そのほか、「雇用の確保を進める」(20件)、「派遣社員を禁止し正社員にする」(5件)との“雇用の安定”、「社会保障を充実させる」(7件)などの“社会保障の充実”、さらに「定額給付金をやめる」(9件)、「医療を保護する」(7件)、「農業振興を行う／食糧の自給率を上げる」(4件)などがあげられています。

9. 定額給付金の使い道

「預貯金」(33.2%)がトップ。「生活費の補填」(25.4%)、「プチ贅沢」(15.4%)が続く。

図 1 1. 定額給付金の使い道



属性	項目	預貯金	生活費の補填	プチ贅沢	国内旅行(帰省を含む)	家電製品の購入	子供の教育関連	ローン・クレジットの支払い	衣料品・服飾費	海外旅行	金融商品への投資	趣味や習い事	その他
年代	20代 <n=125>	48.8	13.6	16.8	5.6	4.8	2.4	2.4	4.8	0.8	-	-	-
	30代 <n=125>	30.4	28.0	10.4	7.2	4.8	4.0	6.4	4.0	1.6	1.6	-	1.6
	40代 <n=125>	23.2	37.6	15.2	3.2	6.4	8.0	3.2	0.8	0.8	0.8	0.8	-
	50代 <n=125>	30.4	22.4	19.2	7.2	6.4	4.8	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
妻の職業	正規有職 <n=79>	38.0	20.3	17.7	7.6	5.1	1.3	3.8	2.5	1.3	2.5	-	-
	パート <n=123>	22.8	31.7	13.8	7.3	5.7	7.3	5.7	0.8	2.4	1.6	-	0.8
	専業主婦 <n=298>	36.2	24.2	15.4	4.7	5.7	4.7	2.3	3.7	0.7	0.3	1.0	1.0
世帯年収	600万円未満 <n=188>	38.3	22.9	13.8	5.9	5.3	4.3	4.3	4.3	0.5	-	-	0.5
	600～800万円未満 <n=119>	34.5	25.2	17.6	3.4	5.0	5.0	3.4	1.7	0.8	-	1.7	1.7
	800～1000万円未満 <n=90>	32.2	34.4	7.8	5.6	4.4	5.6	3.3	2.2	1.1	2.2	1.1	-
	1000万円以上 <n=103>	23.3	22.3	22.3	8.7	7.8	4.9	1.9	1.9	2.9	2.9	-	1.0

定額給付金が給付されたらどのように使おうと思っているのか聞きました。

最も多いのは「預貯金」(33.2%)で、3割強を占めています。次いで多いのは「生活費の補填」(25.4%)で2割強、さらに「プチ贅沢」(15.4%)が1割強で続いています。そのほか、「国内旅行(帰省を含む)」(5.8%)、「家電製品の購入」(5.6%)、「子供の教育関連」(4.8%)、「ローン・クレジットの支払い」(3.4%)などがあげられています。

- 妻の年代別に見ると、《20代》では「預貯金」(48.8%)がとりわけ多く半数弱を占めているのに対して、《40代》は「生活費の補填」(37.6%)がトップで、「預貯金」(23.2%)は2割強と他の年代を大きく下回っています。
- 妻の職業別に見ると、《正規有職》《専業主婦》は「預貯金」(38.0%、36.2%)が3割強を占め最も多くなっていますが、《パート》(22.8%)では2割強にとどまり、「生活費の補填」(31.7%)がトップです。
- 世帯年収別に見ると、《600万円未満》《600～800万円未満》は「預貯金」(38.3%、

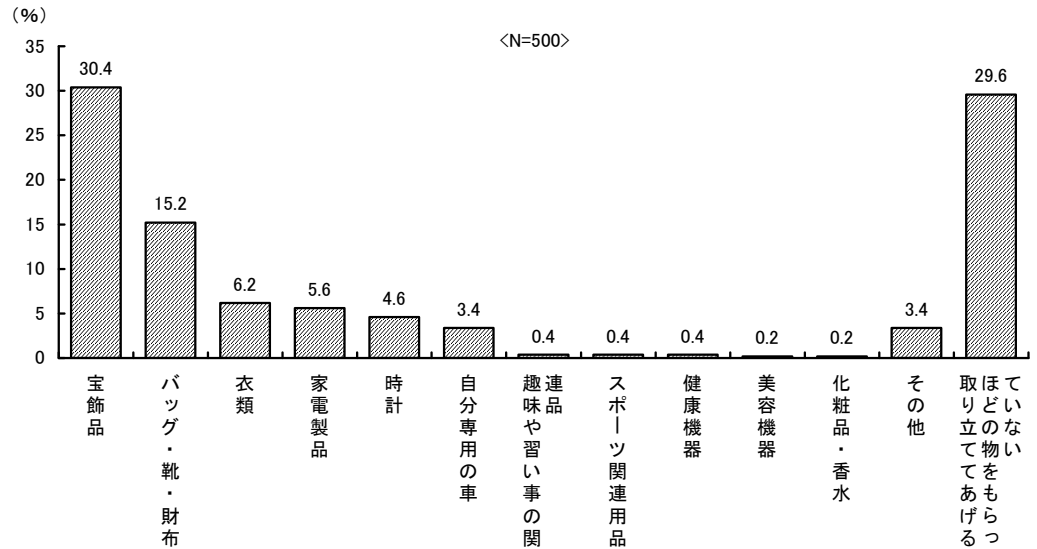
34.5%) がトップですが、《800～1,000 万円未満》は「生活費の補填」(34.4%) が最も多く「預貯金」(32.2%) をわずかに上回っています。一方、《1,000 万円以上》は「預貯金」(23.3%) や「生活費の補填」(22.3%) が他の層を下回り、「プチ贅沢」(22.3%) が上回っており、3 項目がほぼ同率となっています。

〔4〕 お金にまつわる話

1. 結婚後に夫からもらったものの中で最も高額なもの

「宝飾品」(30.4%) がトップ、次いで「バッグ、靴、財布」(15.2%)。「もらっていない」(29.6%) は約 3 割。

図 1 2. 結婚後に夫からもらったものの中で最も高額なもの



年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>
宝飾品	28.8	30.4	28.8	33.6
バッグ・靴・財布	23.2	14.4	14.4	8.8
衣類	8.8	8.8	4.0	3.2
家電製品	4.8	5.6	7.2	4.8
時計	7.2	1.6	6.4	3.2
自分専用の車	1.6	4.0	3.2	4.8
趣味や習い事の関	0.8	-	-	0.8
スポーツ関連用品	1.6	-	-	-
健康機器	-	0.8	0.8	-
美容機器	0.8	-	-	-
化粧品・香水	-	0.8	-	-
その他	3.2	4.8	2.4	3.2
取り立ててあげない物	19.2	28.8	32.8	37.6

世帯年収	600万円未満 <n=188>	600~800万円未満 <n=119>	800~1000万円未満 <n=90>	1000万円以上 <n=103>
宝飾品	30.9	27.7	27.8	35.0
バッグ・靴・財布	17.0	13.4	14.4	14.6
衣類	6.4	5.9	8.9	3.9
家電製品	4.3	6.7	2.2	9.7
時計	5.3	2.5	2.2	7.8
自分専用の車	2.1	5.0	4.4	2.9
趣味や習い事の関	0.5	-	-	1.0
スポーツ関連用品	0.5	-	1.1	-
健康機器	0.5	-	1.1	-
美容機器	0.5	-	-	-
化粧品・香水	-	-	-	1.0
その他	2.7	2.5	5.6	3.9
取り立ててあげない物	29.3	36.1	32.2	20.4

サラリーマン世帯の主婦は、結婚後夫からどのようなものをプレゼントしてもらっているのでしょうか。結婚後に夫からプレゼントされたものの中で最も高額なものをあげてもらいました。

最も多いのは「宝飾品（指輪、ネックレス、ピアス、イヤリングなど）」(30.4%)で約 3 割を占めています。次いで「バッグ、靴、財布」(15.2%)が多くあげられており、以下、「衣類」(6.2%)、「家電製品（パソコン、ウォーターオーブン、サイクロン掃除機など）」(5.6%)、「時計」(4.6%)、「自分専用の車」(3.4%)などが続いています。

その一方で「取り立ててあげるほどの物はもらっていない」(29.6%)との回答も多く、ほぼ 3 割を占めています。

- 妻の年代別に見ると、いずれの年代も「宝飾品」が最も多く大きな違いは見られませんが、《20代》では「バッグ、靴、財布」(23.2%)も 2 割強と少なくありません。なお、「取り立ててあげるほどの物はもらっていない」との回答は年齢の高い人ほど

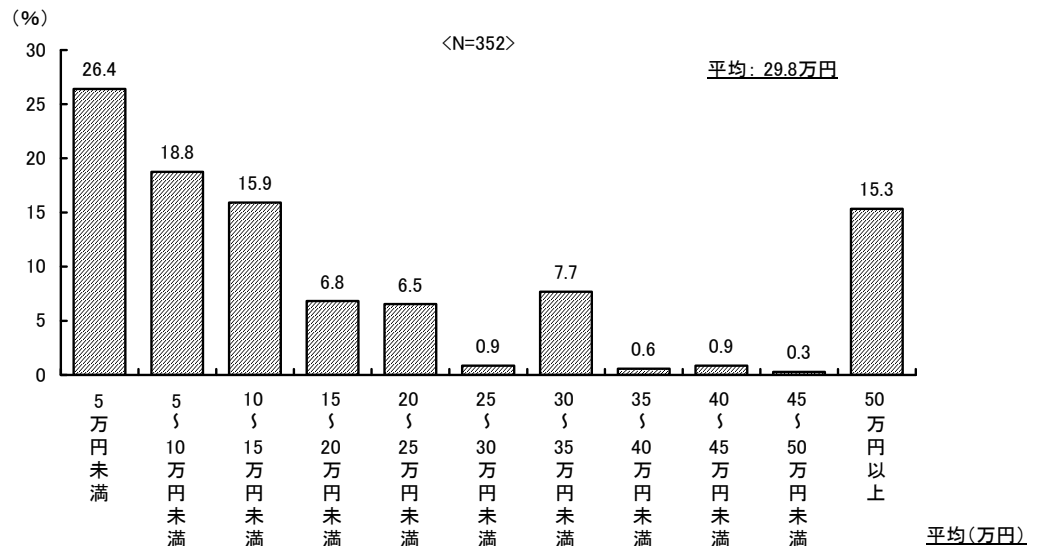
多く、《50代》（37.6%）では4割弱を占めています。

- 世帯年収別に見ると、《1,000万円以上》は「宝飾品」（35.0%）がとりわけ多く他の層を上回っています。「取り立ててあげるほどの物はもらっていない」は《600～800万円未満》（36.1%）や《800～1,000万円未満》（32.2%）に多くなっています。

2. 夫からもらったものの金額

「5万円未満」(26.4%)が2割強、「5～10万円未満」(18.8%)と「10～15万円未満」(15.9%)がともに1割強。平均は29.8万円。

図 1 3. 結婚後夫からもらった最も高額なものの金額 (もらった人のみ)



年代	平均(万円)											平均(万円)	
	20代	30代	40代	50代	600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上	20代	30代	40代		50代
20代 <n=101>	39.6	27.7	12.9	7.9	2.0	-	3.0	-	-	-	-	6.9	14.8
30代 <n=89>	31.5	19.1	13.5	6.7	6.7	1.1	4.5	2.2	-	1.1	13.5	27.8	
40代 <n=84>	17.9	15.5	20.2	6.0	9.5	1.2	13.1	-	2.4	-	14.3	25.6	
50代 <n=78>	12.8	10.3	17.9	6.4	9.0	1.3	11.5	-	1.3	-	29.5	56.0	
世帯年収	600万円未満 <n=133>	40.6	23.3	15.0	6.8	1.5	4.5	0.8	-	-	7.5	13.2	
600～800万円未満 <n=76>	26.3	27.6	11.8	6.6	5.3	-	3.9	-	1.3	-	17.1	28.4	
800～1000万円未満 <n=61>	16.4	9.8	21.3	6.6	11.5	1.6	9.8	-	-	1.6	21.3	41.6	
1000万円以上 <n=82>	11.0	9.8	17.1	7.3	12.2	2.4	14.6	1.2	2.4	-	22.0	49.2	

夫からもらったものの中で最も高額なものがいくらだったのか、その金額もあわせて聞きました。

「5万円未満」(26.4%)が2割強を占めており、「5～10万円未満」(18.8%)、「10～15万円未満」(15.9%)がそれぞれ1割強となっています。また、「50万円以上」(15.3%)も1割強を占めています。

平均金額は29.8万円です。

ちなみに、最高金額は600万円で、もらったものは「自分専用の車」です。

- 妻の年代別に見ると、《20代》は「5万円未満」(39.6%)がほぼ4割を占め平均金額は14.8万円にとどまっていますが、《30代》は「5万円未満」(31.5%)が3割強で平均金額が27.8万円、《40代》は「10～15万円未満」(20.2%)が約2割で平均金額は25.6万円となっており、《50代》は「50万円以上」(29.5%)がほぼ3割を占め平均金額は56.0万円となっています。ほぼ年齢の高い人ほど高額ですが、《40代》は《30代》をやや下回っています。
- 世帯年収別に見ると、《600万円未満》は「5万円未満」(40.6%)が約4割を占め平均金額が13.2万円にとどまっていますが、《600～800万円未満》は「5～10万円未満」

(27.6%) が 3 割弱を占め平均金額が 28.4 万円、《800～1,000 万円未満》は「10～15 万円未満」と「50 万円以上」(各 21.3%) がそれぞれ 2 割強を占め平均金額が 41.6 万円、《1,000 万円以上》は「50 万円以上」(22.0%) が 2 割強を占め平均金額が 49.2 万円と、年収の高い人ほど高額です。

● もらった品物別に見ると、

	サンプル数	5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25～30万円未満	30～35万円未満	35～40万円未満	40～45万円未満	45～50万円未満	50万円以上	平均(万円)
宝飾品	152	20.4	15.1	20.4	5.3	7.2	0.7	11.2	0.7	1.3	0.7	17.1	28.2
バッグ・靴・財布	76	32.9	35.5	9.2	13.2	3.9	-	2.6	-	-	-	2.6	8.8
衣類	31	48.4	22.6	9.7	3.2	6.5	3.2	3.2	3.2	-	-	-	7.7
家電製品	28	10.7	14.3	28.6	14.3	17.9	-	14.3	-	-	-	-	14.3
時計	23	43.5	8.7	17.4	4.3	8.7	4.3	4.3	-	4.3	-	4.3	12.0
自分専用の車	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	213.5
趣味や習い事の関連品	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	26.0
スポーツ関連用品	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	16.5
健康機器	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	18.5
美容機器	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
化粧品・香水	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0
その他	17	35.3	11.8	11.8	-	-	-	-	-	-	-	41.2	50.6

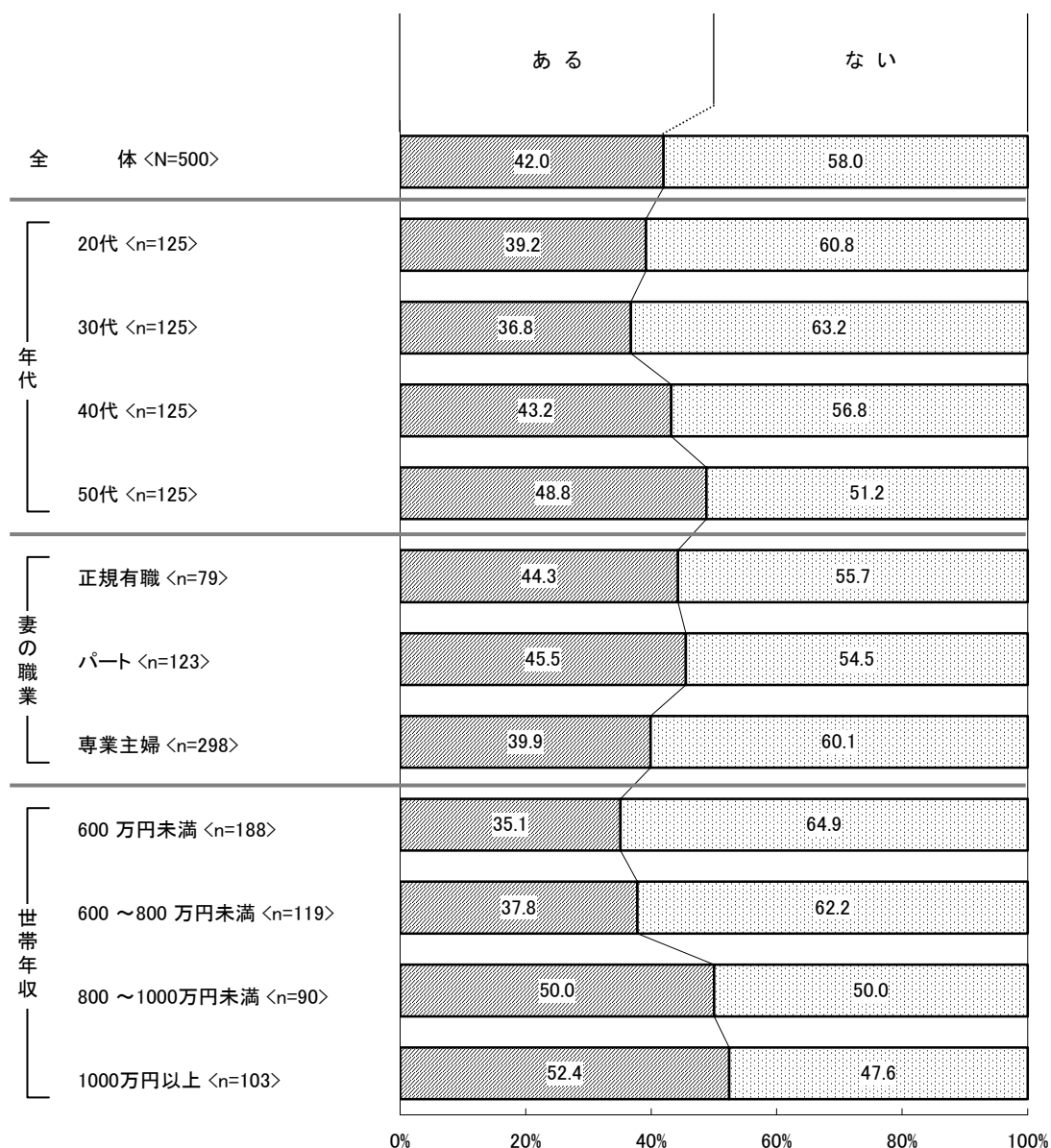
《自分専用の車》は全回答者が「50 万円以上」(100.0%) と答えており、平均金額は 213.5 万円と突出しています。それ以外では《宝飾品》は「5 万円未満」と「10～15 万円未満」(各 20.4%) がそれぞれ約 2 割を占めるものの、「50 万円以上」(17.1%) も 2 割弱を示しており、平均金額は 28.2 万円とその他の品物を上回っています。

3. 夫に内緒の資産の有無

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない奥様名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

「ある」(42.0%)は4割強で、「ない」(58.0%)が6割弱。

図 1 4. 夫に内緒の資産の有無



サラリーマン世帯の主婦は、夫に内緒にしている資産をどれくらいの割合の人が持っているのでしょうか。夫に内緒の資産があるかについて聞いてみたところ、「ある」(42.0%)は4割強で、「ない」(58.0%)が6割弱となっています。

- 妻の年代別に見ると、《20代》《30代》は「ある」(39.2%、36.8%)が4割弱にとど

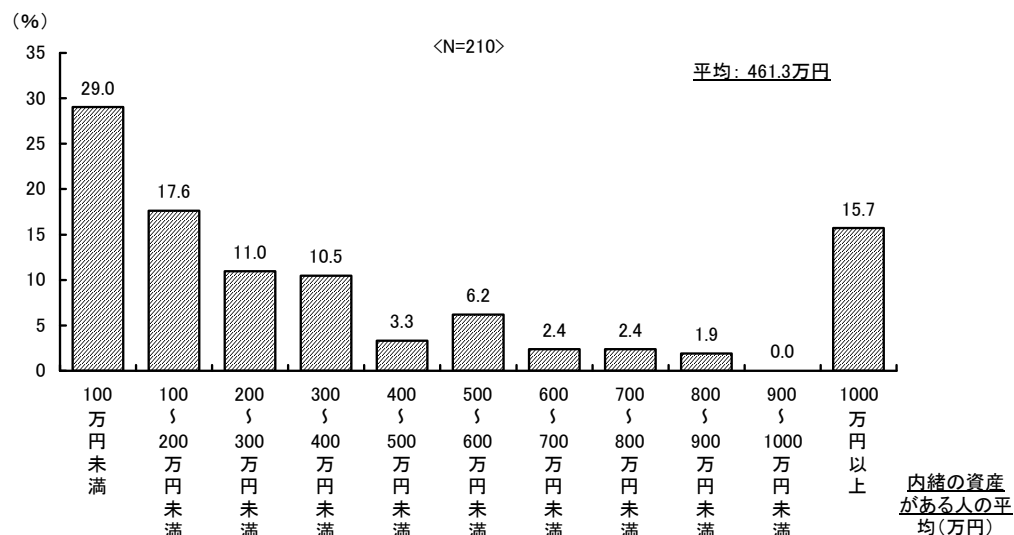
まっていますが、《50代》（48.8%）では半数弱、《40代》（43.2%）も4割強を占めています。

- 妻の職業別に見ると、《パート》《正規有職》は「ある」（45.5%、44.3%）が4割強を占めており、《専業主婦》（39.9%）を上回っています。
- 世帯年収別に見ると、《600万円未満》《600～800万円未満》は「ある」（35.1%、37.8%）が3割強にとどまっていますが、《1,000万円以上》（52.4%）、《800～1,000万円未満》（50.0%）では半数を占めています。

4. 夫に内緒の資産の額

「100万円未満」(29.0%)が3割弱、「100～200万円未満」(17.6%)、「1,000万円以上」(15.7%)が1割強を占める。平均は461.3万円。

図 15. 夫に内緒の資産額 (夫に内緒の資産がある人のみ)



年代	20代 <n=49>	30代 <n=46>	40代 <n=54>	50代 <n=61>	600万円未満 <n=66>	600～800万円未満 <n=45>	800～1000万円未満 <n=45>	1000万円以上 <n=54>	内緒の資産がある人の平均(万円)
20代 <n=49>	55.1	21.7	22.2	19.7	43.9	37.8	8.9	20.4	152.9
30代 <n=46>	21.7	21.7	24.1	6.6	21.2	20.0	13.3	14.8	431.5
40代 <n=54>	22.2	24.1	11.1	8.2	9.1	6.7	13.3	9.3	304.8
50代 <n=61>	19.7	6.6	8.2	4.9	7.6	11.1	13.3	11.1	869.9
妻の職業	20.0	20.0	14.3	17.1	3.0	1.5	3.0	1.5	267
正規有職 <n=35>	20.0	20.0	14.3	17.1	3.0	1.5	3.0	1.5	267
パート <n=56>	35.7	14.3	7.1	12.5	5.4	5.4	1.8	3.6	380.6
専業主婦 <n=119>	28.6	18.5	11.8	7.6	3.4	6.7	2.5	1.7	499.9
世帯年収	43.9	21.2	9.1	7.6	3.0	1.5	3.0	1.5	267
600万円未満 <n=66>	43.9	21.2	9.1	7.6	3.0	1.5	3.0	1.5	267
600～800万円未満 <n=45>	37.8	20.0	6.7	11.1	-	11.1	-	4.4	358
800～1000万円未満 <n=45>	8.9	13.3	20.0	13.3	6.7	11.1	-	2.2	588.2
1000万円以上 <n=54>	20.4	14.8	9.3	11.1	3.7	3.7	5.6	1.9	678.9

夫に内緒にしている資産を持っているという主婦は、いくらかの資産を持っているのでしょ。夫に内緒の資産を持っていると回答した人に資産の額も聞いてみました。

「100万円未満」(29.0%)が3割弱、「100～200万円未満」(17.6%)が2割弱を占めていますが、「1,000万円以上」(15.7%)も少なくありません。以下、「200～300万円未満」(11.0%)、「300～400万円未満」(10.5%)がそれぞれ1割強となっています。

夫に内緒の資産がある人の資産額の平均は461.3万円です。

ちなみに、最高金額は4,000万円で、同金額が2人いました。

- 妻の年代別に見ると、《20代》は「100万円未満」(55.1%)が半数強を占め平均金額は152.9万円ですが、《30代》《40代》は「100万円未満」(21.7%、22.2%)と「100～200万円未満」(21.7%、24.1%)がそれぞれ2割強で平均金額は431.5万円と304.8万円、《50代》は「1,000万円以上」(34.4%)が3割強を占め平均金額は869.9万円となっています。おおむね年齢の高い人ほど高額ですが、《40代》は《30代》をやや下回っています。

- 妻の職業別に見ると、《パート》は「100万円未満」(35.7%)が他の職業を上回り、平均金額は380.6万円で最も低額となっています。一方、《専業主婦》は平均金額が499.9万円で最も高く、《正規有職》は458.7万円です。
- 世帯年収別に見ると、《600万円未満》は「100万円未満」(43.9%)が4割強を占め平均金額は267.0万円、《600～800万円未満》も「100万円未満」(37.8%)が4割弱で平均金額は358.0万円ですが、《800～1,000万円未満》は「1,000万円以上」(22.2%)が2割強を占めており平均金額は588.2万円、《1,000万円以上》も「1,000万円以上」(25.9%)が2割強を占め平均金額は678.9万円と、世帯年収が高い人ほど高額になっています。